

ゆめのね相談



電話 電話で気軽に相談したい…

訪問 ご自宅でゆっくり話したい…

来所 子どもを遊ばせながら相談したい…

- 相談時間は月～金曜の平日 10～17時
(※年末年始12/29～1/3を除く)
- 男性スタッフ・女性スタッフが常駐
- 匿名での相談でもOK
- お子さんからの相談もお待ちしています

【相談例】

- ・子どもの発達状況が気になる…
- ・イライラして子どもに当たってしまう
- ・(子ども) 学校でイヤなことがあった

※上記以外のご相談方法をご希望の方は、お問い合わせください

地域交流事業「玉ねぎ染め」を行いました

地域の皆さんに児童家庭支援センターを身近に感じてもらおうと、昨年に引き続き、「玉ねぎ染め体験」を7月30日(日)に実施しました。たくさんの方にご応募頂き、5組6名の親子が参加！綿バッグの生地にピー玉やおはじきなどを包んで、根元を輪ゴムでつく縛って模様をつけていきます。「こうやってみたらどうなるかな?」「たくさん包んだよ!」お子さんはもちろん、お父さんお母さんたちも真剣な表情で手を動かしていました。



玉ねぎの煮だし液をかけます!



染めている間にプラ板作り、バッグにつけるのが楽しみ!



オリジナルバッグの完成!



ピー玉やおはじきを包んで…

神奈川中ロータリークラブで事業説明を行いました

この度ご縁があり、神奈川中ロータリークラブの例会でお話する機会を頂きました。横浜型児童家庭支援センターの事業・役割、子どもの声に耳を傾け尊重することの大切さをお話させて頂きました。

今後も市民の皆さんに広く知っていただけるよう努めて参ります!



お知らせ

11月19日(日)、川島地域ケアプラザで開かれる「川島文化祭」に、ゆめのねも出展します! ゲームや工作など、子ども向けの楽しいイベントを予定しています。ぜひお越しください!



ついに星の色がわかった…!



漫画担当の佐々木です!

(ペンネーム/zouyama)



漫画制作のアシスタントを約15年していました。子育てがラクになるようなお手伝いが少しでもできればと思い、経験を生かし描いています。これからもおたのしみに!



ゆめのね通信

～ 地域の子ども・子育て応援団 ～

横浜型児童家庭支援センター ゆめのね

児童福祉法に基づき、横浜市から認可を受けた児童福祉施設です。相談員や心理担当職員など専門の職員が、子育てやご家庭に関する様々な相談をお受けします。

【設立年】2018年 【職員数】9名

No. 4 / 2023 (令和5) 年10月25日発行
(1月、4月、7月、10月の25日発行)
児童家庭支援センター ゆめのね
横浜市保土ヶ谷区和田2-2-7 メゾン横山1階
TEL 045-465-4472 発行責任者: 松下圭一

「ゆめのね」の由来

子どもたちが「あのね」と何でも話せる場になりたい

ゆめのね

根 地域に「根」ざした場所になりたい

音

「音」が広がるように
支えの輪が広がりますように



実施事業

子育て相談事業

0～18歳までの子どもに関する相談をお受けし、必要に応じて、関連機関と協力しながら解決に向けたお手伝いをします。



相談室



プレイルーム

子育て短期支援事業

2～12歳(小学生まで)の子どもを対象とした横浜市の委託事業で、利用の必要性を区や児童相談所が判断し、必要と認められた場合に利用できる事業です。利用には登録が必要で、世帯の収入に応じた利用料が発生します。

子育て応援団長「のねさん」です



元気と成長のパロメーター
花が咲く、かも?

好きなことは
人のお話を聞くこと。
夢は、ふたばから
花を咲かせて
お友だちに届けることです。

支え合いのシンボル

こつぞいとうとき
色が変わります!

今月の「マルっとほどこや」

保土ヶ谷区等で様々な活動を行う人々を
ゆめのね職員が取材・紹介! (詳しくは中面)



第4回は… 峯小学校コミュニティハウスを中心に活動する無料学習支援教室『こころ星』さんです。

いまま病気と付き合いながら活動していると教えてくださった河野さん。「弱い立場の子の気持ちが分かる」「こんなでも生きてられるぞ!」って伝えたい…苦難の過去が逆に立ち向かう力になっていると感じました。細やかな仕掛け、地域とつながろうとする力、そして情熱。どれも学ぶことが多い取材になりました。河野さん、ありがとうございました! (佐藤)

マルっとほどがや

保土ケ谷区で様々な活動をおこなう方々を
ゆめのね職員が訪問、紹介します



NPO法人 学舎こころ星 (無料学習支援室)

- ★ **設立年** 2022 (令和4) 年12月
- ★ **こころ星の由来** どこにいても正しい方角を知る目印となる北極星の和名は「心星 (しんぼし)」。「優しくてあたたかい場所にしたい」と思い、「こころ星」と名付けたそうです
- ★ **活動場所** 主に、峯小学校コミュニティハウス (保土ケ谷区) (原則毎月第1・3の水曜・日曜 13~17時に開催)
※川島小学校・瀬戸ヶ谷小学校の放課後キッズクラブでも活動
- ★ **問い合わせ先** 080-4327-0766

今回お話を聞いた場所



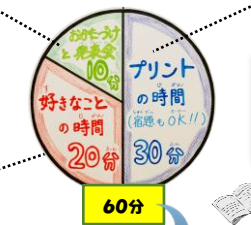
学舎こころ星の理事長・河野さんと私たちゆめのねが出会ったのは、今年初め。「無料の学習支援室を始めたのでよろしくをお願いします」と、河野さんがゆめのねにチラシを持ってきてくださったのが始まりでした。会話を重ねるうち、河野さんのエネルギーに惹かれ、今回取材を申し込ませていただきました!



代表理事 河野里奈さん (塾講師歴10年以上) (元・幼稚園教諭・塾講師)

学習支援教室のある日

放課後キッズクラブの子どもがくるぞ〜



学習進度別のプリントのほか、「おたのしみプリント」も用意。取材した日は、クロスワードパズルが大人気でした。遊び感覚で言葉の意味を学んでいました。



スタッフの鈴木さんはお子さん連れで参加!子どもたちも自然と優しい表情になっていました

こころ星のルール

- ★ ゆっくり歩こう
- ★ 道具を大切に使う
- ★ たのしくお話ししよう
- ★ やさしいことばを使う
- ★ こまった時は先生に言ってみよう

学習支援教室のある日

中・高校生、ときには大学生もやってきました



元塾講師の河野さんと鈴木さん。幅広い年代の支援ができるのもこころ星の大きな特徴です。願書を書く高校生、卒論に取り組む大学生...まさに、みんなの居場所、ですね!

参加者・地域の人の声

学習支援教室に参加した小学生

ここで勉強できて、いっぱい学べるのがうれし!お父さんお母さんにプリントを見せて、「こういうことしたよ!」と報告しています。お父さんお母さんも「こころ星さん、すごだね!」って言っています。



金野さん

峯小学校コミュニティハウス・館長 金野 彰さん

こころ星さんが来て、コミュニティハウス全体が活性化しました。すごいなと思うのは、一人ひとりの個性とレベルに合わせた対応をしていることです。これからも地域を挙げて応援して、子どもたちの幸せを守っていききたいです。

河野さんがNPO法人こころ星を立ち上げたきっかけは何ですか?

大学2年から塾講師をしていたのですが、元々身体が弱く、就職活動が順調に進みませんでした。「自分に何が出来るんだろう」と悩んでいた時、教え子が「私たちみたいな子に出会って、これからもしの先生になってほしい」と言ってくれ、存在意義をくれたんです。「この人が私の先生だったんだよ」と自慢してもらえようかなんになろうと思って12年間、塾講師として頑張りましたが、子どもたちの人生に寄り添ううち塾講師の限界を感じて...体調を崩してしまいました。ドクターストップがかり、塾講師をやめることになったのが法人設立のきっかけになりました。**塾講師をしている中ジレンマを感じたんですか?**

昔から身体が弱い上に、小学生の時はいじめられていました。人間不信で引っ込み思案、さらに学校が大嫌いだったんです。「安全なバイト先を選んで」という親の願いに応え近所の塾でバイトを始めたのですが、それまでの傷や嫌な思い出が、子どもに寄り添うなかで初めて生かされたんです。でも、塾は勉強を教える場所ですから、子どもたちの相談に十分に乘ることができない...。そこが大きなジレンマでした。

こころ星さんの名前の由来を教えてください。

名前の由来は、北極星の和名「心星 (しんぼし)」から来ています。北極星は地球の地軸の延長線上にあるので場所が変わりません。だから、迷っても北極星を見つけたら行きたい場所が分かる。子どもたちの北極星のような存在になりたい、という思いをこころ星に込めました。それと、太陽の光がまぶしすぎる子もいると思うんです。迷った子どもたちや保護者の皆さんが安心できるような、優しく寄り添う星の光になりたいですね。

学習支援教室で大切にしていることはありますか?

設立当初は、学習プリントと折り紙を用意し、スケジュールはありませんでした。子どもたちは皆、折り紙を始めたんです。どうすれば自発的に学習に取り組めるか、やはり元塾講師で幼稚園教諭の経験もあるスタッフの鈴木さんと徹底的に話し合いました。その結果、学習プリントのほかに、「お楽しみプリント」も用意しました。さらにスケジュールも工夫し、30分のプリント時間のあとに『好きなことの時間』、最後に『発表時間』を設けることで、子ども自身が達成感を感じられる形にたどり着きました。学習が苦手な子に「宿題やろう」と言うのではなく、気持ちほぐしてまず仲良くなる。その上で心に引っかかっていることを聞いてあげる。そうした営みを積み重ねて、勉学の道に安心して進める土台を作りたいですね。

教室内にはルールも貼ってありましたね

秩序の面で、子ども自身が守らなくちゃと思えるような約束を大事にしています。自分で気づいて納得したものは忘れないうし、守れるんですよね。だから一緒に、どうすればいいかなと常に考えていきたいと思っています。**峯小コミュニティハウスさんとの連携もいいですね!**

小学校併設のコミュニティハウス、という点に惹かれて館長の金野さんに無料学習塾の提案をしに行きました。偶然にも、金野さんが子どもの教育にすごく興味がある方で、子ども向けの自主事業をやりたい!と考えていたそうなんです。ですから、出会ってからは全面的にバックアップしてくださり、峯小キッズクラブの担当者の方もすぐ紹介してくれました。子どもの将来を真剣に考え議論してくださる方々ばかりで、「こんな人たちが身近にいたのか!」と驚かされました。いまではこころ星の父と母のように活動を見守ってくれています。最近特に大切と思うことは、地域との関わりですね。地域に安心できる大人がいることは、親子にとってすごく大事だと思うんです。イベントは地域の子どもと大人をつなぐチャンスになると期待しています。

こころ星さんの夢はありますか?

私たちの目標は一人でも多くの子を笑顔にすることです。そのためにできることを学習以外でも常に考えていて、イベントもその一つです。子どもは興味を持ってれば自分から学習すると信じているので、その入り口を提供する役目を我々は担いたい。だからイベントのコンセプトは、「知識が0から100」。興味が0から100にしています。私やメンバーが楽しいと思っていないことは子どもも楽しくないから、まず自分たちが楽しいと思うことをやっていきたいです。イベントをきっかけに、勉強に対する苦手意識を取り去ってあげたいです。



キッズの先生がお迎えに!
今日も楽しかったね!



出席カードを手に
パチリ!



最後に、河野さんにとってこころ星とは?

こころ星は、私のすべて、ですね。今までの苦い経験も含め、思いのすべてをぶつけられる場所です。団体を立ち上げてまだ1年弱。みんなで失敗しながらみんなで試行錯誤して、地域で愛される団体に育っていきたいと思っています。